

平成21年度の輸送実績（速報）

平成22年4月

1. 輸送概況

平成21年度は、7月に「中国・九州北部豪雨」による輸送障害が発生したほか、10月には非常に強い勢力の台風18号の上陸、さらに12月から3月にかけて北陸・信越地方を中心として毎月のように大雪による輸送障害が発生したことから、年間を通じ、高速貨1,088本、専貨33本が運休した。

荷動きについては、前年度下期からの国内外の景気低迷の影響を受け、大規模な減産、消費の冷え込みが継続し、上期中は極めて低調に推移した。1月以降は、アジア地域の景気回復に伴う輸出産業等の生産活動の回復によりゆるやかな増加を見せたものの、年間を通してみると前年を大きく下回る結果となった。

コンテナ貨物は、農産品・青果物、自動車部品、紙・パルプ、化学工業品、積合せ貨物など、すべての品目が前年を大きく下回り、年度全体では前年比91.8%となった。自動車部品、紙・パルプ、化学工業品などは、上期の大幅な減産の影響を受け大きく減送となった。また、農産品・青果物は政府米が大きく減送となった。

車扱貨物は、石油が前年を上回ったものの、セメント・石灰石が前年を下回り、全体では98.0%となった。石油は、前年価格が高騰し消費が大幅に減少した反動に加え、揮発油が高速道路通行料金のETC割引拡大に伴う長期連休期間の需要が拡大したことを受け前年を上回った。一方、セメント・石灰石は、工場の減産及び一部顧客の輸送中止により減送となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別	平成21年度		前年比
	本年実績	前年実績	
コンテナ	20,358	22,178	91.8%
車扱	10,690	10,905	98.0%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

種別	品目	本年度実績	前年度実績	増減	前年度比
コンテナ	農産品・青果物	1,992	2,321	-329	85.8%
	化学工業品	1,916	2,038	-122	94.0%
	化学薬品	1,497	1,532	-35	97.7%
	食料工業品	3,224	3,353	-129	96.2%
	紙・パルプ	3,059	3,478	-419	88.0%
	他工業品	1,501	1,667	-166	90.0%
	積合せ貨物	2,231	2,406	-175	92.7%
	自動車部品	709	769	-60	92.2%
	家電・情報機器	414	419	-5	98.8%
	エコ関連物資	357	371	-14	96.2%
	その他	3,459	3,830	-371	90.3%
	コンテナ計	20,358	22,178	-1,820	91.8%
車扱	石油	7,226	7,180	46	100.6%
	セメント・石灰石	1,283	1,404	-121	91.4%
	車両	1,059	1,077	-18	98.4%
	その他	1,137	1,245	-108	91.3%
	車扱計	10,690	10,905	-215	98.0%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年度は速報値、前年度は確報値)